

鹿屋地区

①野里の田の神像

市内で唯一の県指定文化財像です。右手にメシゲを持ち、左手に舞用の鈴を持ち片足を持ち上げて「鈴持ち田の神舞型」の像です。1751（寛延4）年に造られたもので、このタイプとしては、最も古いものとされています。

②中津神社前の田の神像

上高隈町中津神社の入口にある田の神像で、お化粧がされ地域の人々から愛されていることがわかります。烏帽子をかぶり神官の格好をしていることから「神職型」の像で、市内では高隈地区のみに所在する大変珍しいタイプの像です。



吾平地区

⑤車田の田の神像

像の傍らに修験道の修行の場を表現した山水があり、像の頭部と山水の上部には小仏像が彫り込んである県内でも他に例のない大変珍しい像です。僧侶の格好をしていることから「僧侶型」の像です。

⑥真角の田の神像

右手にスリコギ、左手にメシゲを持っています。1775（安永4）年に造られており、吾平地区で最も古く、僧侶の格好をして、片足を上げ歩いている姿をしていることから「旅僧型」の像です。吾平地区の一般的なタイプです。



各地区に現存している代表的な田の神像



⑨中郷の田の神像

中郷公民館敷地内にあり、右手にスリコギ、左手にメシゲを持って田んぼを見守っています。市内の田の神像では珍しく、片膝をついて座っているかっぶくのよい姿で、農民の格好をしていることから「農民または庶民型」の像です。

⑩岡崎上の田の神像

岡崎上公民館敷地内にあり、串良地区内で最も古い1805（文化2）年に造られたものです。僧侶の格好をして、片足を上げ歩いている姿をしていることから「旅僧型」の像です。串良地区の一般的なタイプのものです。

串良地区

⑬下平房の田の神像

平房集落活性化センターにあるこの像は、右手にメシゲ、左手にスリコギを持ったユーモラスな表情の田の神像です。僧侶の格好をしていることから「僧侶型」の像です。毎年田植え前に集落の人々が豊作を祈ってお化粧をする風習が今でも残っています。

⑭宮園の田の神像

頭にコシキかぶり、左手に持ったスリコギを肩に担ぐような格好で持ち、首をかしげている滑稽な田の神像です。左足をもち上げており、踊る姿を表現していることから「田の神舞型」の像です。長い年月集落の田んぼを見守っており、風雨にさらされてすり減っています。

輝北地区

市内の代表的な田の神像マップ

①野里の田の神像 ②中津神社前の田の神像 ③南町牟田畑の田の神像 ④岡泉の田の神像 ⑤車田の田の神像 ⑥真角の田の神像 ⑦八幡神社境内の田の神像 ⑧大牟礼の田の神像 ⑨中郷の田の神像 ⑩岡崎上の田の神像 ⑪南木池の田の神像 ⑫堂園橋下流の田の神像 ⑬下平房の田の神像 ⑭宮園の田の神像 ⑮歌丸の田の神像 ⑯中福良の田の神像 ⑰南木池の田の神像 ⑱八幡神社境内の田の神像

文化財を探索しよう
～田の神像編～

オットイ田の神
「オットイ」とは「盗る」がなまった方言です。実際には借りてくるので、数年経つと返却をします。田の神像を担ぎ、米や酒など土産の品を持参し正装した行列が、楽器を鳴らしながら田の神像を返しにいきます。その際、盗まれた村では、合同で盛大な酒盛りを開きます。しかし、実際は盗みっぱなしの場合も多く、盗まれないように大きな田の神が作られたり、田の神の所在を明らかにしないところもあったそうです。



嫁入り
結婚式場に田の神像を運び込み、花婿花嫁の間に据える田の神据えという行事が大隅半島内でも特に鹿屋地域でありました。持ち込まれた田の神像は翌日に花婿花嫁が元の場所に返しに行かなければなりません。このために運んで来た人々をもてなし、どこから持ち込んだ田の神像かを聞きだす駆け引きがユーモラスな行事です。これは、花嫁が田の神像のように腰を落ち着けて家を守っていくようにというお祝いの意味があります。

まわり田の神
田んぼを眺めている田の神のほかに、各家庭や新婚家庭をまわる「まわり田の神さあ」と呼ばれるものも多くあります。田の神さあが年毎に各家庭を移動するという行事で、田の神さあは出発する家できれいに花で飾られた籠に載せられて次の一年を過ごす家へと向います。ある地域では、ほら貝と鐘の音に先導されて、女性が籠を担ぎ道中は田の神さあを囲んでの舞いを披露する所もあります。

田の神像にまつわる話

えっ！よく見る田の神像は全国的には珍しい？

現在でも、タノカンドンとかタノカンサアと呼ばれる親しまれている田の神像は、鹿児島県と宮崎県の一部（旧薩摩藩領内）だけに見られる石像です。稲作の豊穰をもたらすとされる農業の神様で、一般に稲作が始まる春ごろ山から降りてきて、収穫をする秋のころ山に戻るとされています。田の神像は、県内に約2,000体あり、江戸時代を中

この像は、神官の姿・僧侶の姿等で手にスリコギやメシゲ（しゃもじ）、鈴を持ち、市内では現在140体ほど確認されています。その中には家の中で保管されている個人所有のものや、地域行事の中で使われているものなど、先人の暮らしや心を伝えるかけがえのないものとして、地域の中で脈々と生き続けています。

心に作られたものが多く、川のほとりや田んぼの畦道、また田を見渡せる高台などに立っています。